

授業科目 解剖生理学実習II

【担当教員名】 川 中 健太郎		対象学年	1	対象学科	健康
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【概要・一般目標：G10】 前期は、“自分自身の身体について生理学的に理解する”ことを目的とした実験・実習を行う。すなわち、自分達自身を被験者として、体力や形態などの身体機能をあらかずパラメーターを測定する。後期は、動物を用いて、栄養素の代謝のしくみ、また、過剰栄養摂取にともなう生活習慣病がひきおこされるしくみを実験を通じて理解する。その他、人体解剖模型、あるいは、顕微鏡による組織観察を通じて、解剖学的知識を学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1) 自分自身の身体について興味をもち、生理学的に理解する。 2) 運動ならびに食事摂取にともなう生じる生理学的反応・変化を実験を通じて理解する。 3) 生活習慣病の成り立ちとしくみを理解する。 4) 臓器の位置や解剖学的特徴を理解する。 5) 実験レポートの書き方を学ぶ。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	後期ガイダンス				実習
2	唾液の消化実験				実習
3	血圧測定				実習
4	たんぱく質の消化実験				実習
5	筋電図測定				実習
6	まとめとレポートの書き方 ならびに 動物実験ガイダンス				実習
7	動物実験（たんぱく質の摂取量と成長の関係）				実習
8	動物実験（たんぱく質の摂取量と成長の関係）				実習
9	動物実験（たんぱく質の摂取量と成長の関係）のまとめとレポートの書き方				実習
10	人体解剖模型の観察とスケッチ 第四回				実習
11	組織観察 第四回				実習
12	動物実験（高脂肪食摂取と肥満・糖尿病）				実習
13	動物実験（高脂肪食摂取と肥満・糖尿病）				実習
14	動物実験（高脂肪食摂取と肥満・糖尿病）のまとめとレポートの書き方				実習
15	まとめ				講義と演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 レポート・試験と出席状況		【履修上の留意点】 事故防止のため、服装（白衣、上履の着用）、実験機器の取り扱い等について注意すること。詳細は学期はじめのガイダンスにおいて説明する。			